

■地域名 中野市日野地区

■特徴的な被害対策 集落ぐるみの「捕獲」対策

1 地域の概要

集落戸数	うち農家	加害鳥獣	被害農作物等	備考

2 実施した被害対策の内容

区分	実施に当たって工夫等したポイント
これまでの経過	<ul style="list-style-type: none"> 日野地区では、イノシシやサル、クマ、カモシカ等の色々な獣が生息しており、それぞれ農作物による被害があった。日野地区の中には5つの区（北から東山、更科、高遠、新野、間山）があり、場所・耕作の有無などによって被害度も異なることから、獣害対策についての関心度に温度差があった。 最も山に囲まれた地域である間山区では、獣害対策について感心を持ち、積極的な地域のリーダーが現れたことと、イノシシによる土手の破壊が増えたことなどから住民の危機意識が高まり、被害対策に対する気運が高まり、区の総会で毎年獣害対策のビデオを見るなどの勉強を始めた。 このようなことから、H19年、市内で最初の獣害対策の協議会『日野地区イノシシ対策協議会』が発足した。
被害対策	<p>捕獲のための勢子支援：猟友会の捕獲に勢子として参加。（H19～）</p> <ul style="list-style-type: none"> イノシシ、ニホンジカの狩猟、有害鳥獣捕獲、及びカモシカの個体数調整。 1月から3月にかけて毎週日曜日の午前午後1回ずつ実施。 集落住民、農協、町、野生鳥獣被害対策チームの約40名が上下1列になって猟友会の射手（15名）に向かって呼子や声で追い込んで捕獲。 勢子は安全対策として、共通のオレンジ色のウィンドブレーカーを着用。また、勢子には協議会で保険（一人950円）を掛けている。
被害状況	減少傾向
効果	<p>その他特記事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 保険料他の必要経費のため、協議会が全戸（農家以外も含む）から120円を徴収している。 猟友会に対する理解が深まるとともに、住民の主体的な対策に対する意識も高まり、参加者も年々増えており、新規に狩猟免許を取得する住民も現れた。 昼食には、猟友会が捕獲したイノシシ（前の回で取れた個体）の料理を振舞うなどして、更に交流を深めている。
農家の方からのコメント	<ul style="list-style-type: none"> まだまだ地域間の温度差があるが、地域のリーダーの考えとしては、「とりあえず意識の高まった人たちを取り込んで対策を進めていけばいい。他の人たちも被害を受けるようになればこちら（協議会の活動）に来るようになるので慌てない。」とのこと。

3 これからの課題

失敗した事柄	
これからの課題	<ul style="list-style-type: none"> 今のところ、捕獲効率がそれほど高くないため、検討が必要。 間山地域は熱心だが、地域間の温度差がいまだ大きい。 防除対策として集落を囲む形で防護柵の設置を検討しているが、イノシシのみでなくニホンジカ、ツキノワグマ、ニホンザルも被害を出すため、簡易柵は困難であり、地域合意と費用負担から未だ一部に留まっている。地域がまとまるのに時間がかかったとしても、補助等の財源ありきで対策をするのではなく、地域としての計画（方針）をしっかりと作って、いいタイミングで事業等を取り入れたい。

4 問合せ先

北信地区野生鳥獣被害対策チーム：北信地方事務所林務課 電話 0269-23-0215

〃 農政課 0269-23-0209

北信農業改良普及センター 0269-23-0221

[→詳細①](#)

[→詳細②](#)

【中野市日野地区 間山】





事前打ち合わせ



同左 (オレンジのベストが猟友会、
オレンジのウィンドブレーカーが勢子)



斜面に1列になって追い込み



同左 (ちょっと休憩)



捕獲したイノシシ



同左 (解体後、皆に振舞う)